



PMS 110 **OWNER'S MANUAL**



日本語版簡易取扱説明書

お客様へ

この度は PGO スクーター PMX-sports をお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。
この商品に添付されております取扱説明書はヨーロッパ向けに作られているため英文にて説明されています。

簡単ではございますが、機能及び取扱方法について説明している個所を日本語にてご説明できるように本書を作成いたしました。

乗車される前に必ず本書をお読み頂けますようお願い致します。

また操作方法及び整備に関する質問がございましたらご購入いただきました PGO 取扱代理店までご相談ください。

PGO 日本代理店

NOVEL FORCE INC. JAPAN

目 次

安全に運転する為の注意点	1
各部名称	2
車体識別	3
個々のコントローラの機能	4
メインスイッチ	4
スピードメーター	5
ハンドルバーコントロール	6
燃料タンクキャップ	7
キックスターター	7
ハンドル（ステアリング）ロック	8
シートロック	8
トランク	9
乗車前の点検	10
ブレーキ	11
ブレーキオイル	11
スロットル　グリップ	11
潤滑油	12
エアーフィルター	12
タイヤ	13
ランプ/シグナルライト	14
操作/乗車する際の注意事項	15
エンジンスタート	15
エンジン暖気	15
ブレーキの使い方	16
エンジン　慣らし運転	17
駐車	17
定期点検	18
メンテナンステーブル	18
エアーフィルターの清掃	19
スパークプラグの点検	20
ブレーキの調整	20
ブレーキオイル	21
フロントフォークの点検	22
バッテリー	23
スペックリスト	24
配線図	25
保証書	26

安全に運転する為の注意点

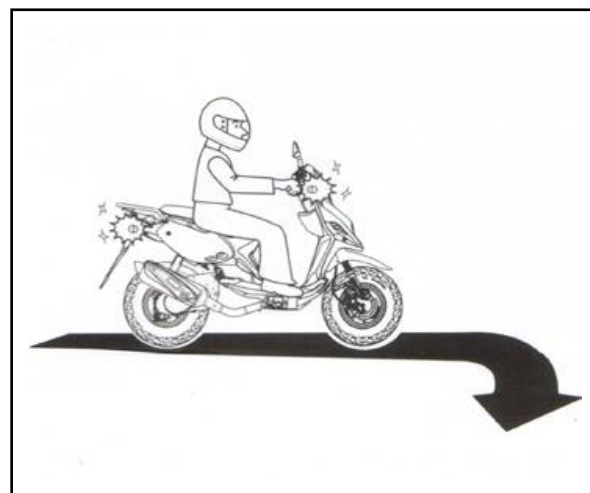
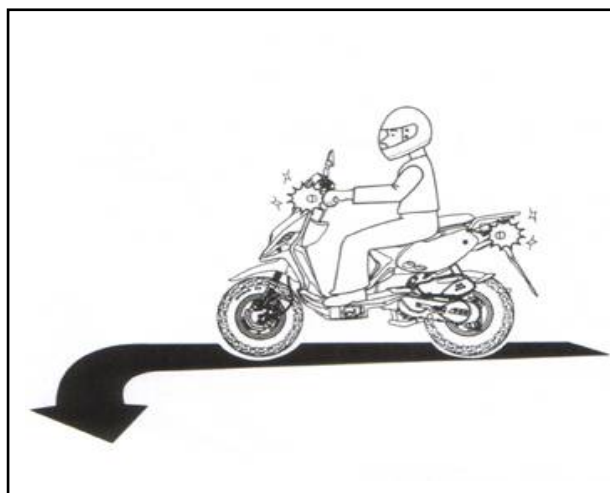
▲ 警告

スクーターに乗るには自分自身で自分の安全を保証する事が特別必要です。

あなたが乗車する前に、これらの要件を知っておいてください。

安全な乗車ルール

1. 運行前点検（12 ページ）は必ず実行し、必要であれば調整または修理をしてから運行してください。
2. 多くの事故は経験のないライダーに関係します。ほとんどの国は、スクーターに乗る為の特別なテスト、またはライセンスを必要とします。乗車する前にあなたが有資格であることを確かめてください。決してあなたのスクーターを経験のないライダーに貸さないでください。
3. 自動車とスクーターの事故が多く起きているが、それは自動車ドライバーからはオートバイが見えないからです。あなたのミスではない事故を避けるのに役立つようあなた自身を目立たせてください。
 - ・ 明るい蛍光色、またはリフレクターのある服を着用してください。
 - ・ 別のドライバーやライダーの「死角」に入らないでください。
4. 各地域の法律と規則に従ってください。
 - ・ 過度なスピードは多くの事故の要因です。法定速度に従ってください。決して、法定速をオーバーするほど速く運行しないでください。
 - ・ スクーターの大きさと操作性は、他のドライバーやライダーを驚かせるかもしれません。それなので、曲がり角や車線変更の時にはウインカーを使用してください。



5. 他の交通に迷惑を掛けない様に気をつけましょう。および私有車道、交差点、駐車場の出入り口等は特に注意が必要です。
6. 乗車時はハンドルをしっかり持ち、両足をステップボードに乗せ、正しい姿勢で乗りましょう。後席に乗車する時はしっかりとスクーターを掴み、ステップに足を乗せて下さい。
7. 決して、エンジンを掛けたまま車両から離れないようにしてください。
8. 悪路を走行する時はスピードを落とし、強い衝撃を受けないよう操作してください。

各部名称



車体の識別

1. エンジンナンバーは左のクランクケースの後ろ側に打刻されています。



注：

上の列はモデルタイプであり、下の列はシリアルナンバーです。部分を注文する時にこのナンバーが必要になるので、メモを取り保管してください。

2. フレームナンバーは、フロントインナーカバーの中に打刻されています。



注：

最初の 9 つはモデルタイプであり、最後の 8 は、シリアルナンバーです。部分を注文する時にこのナンバーが必要になるので、メモを取り保管してください。

個々のコントローラの機能

メインスイッチ

メインスイッチはイグニッションとランプ、ライトシステムを制御します。操作方法は以下のようになります。

1. ON :

電気系統が接続され、エンジンをスタートすることができます。この時、鍵を抜くことはできません。

2. OFF :

すべての電気系統は切断され、この時、鍵を抜くことができます。

3. LOCK :

この位置では、ハンドルがロックされ、鍵が抜けるようになっています。どうぞ 11 ページのハンドルロック操作方法を参照して下さい。

注 :

スクーターを駐車する時は、「OFF」または「LOCK」の位置に合わせて下さい。
(キーを抜いてください)



スピードメーター

1. スピードメーター：スピードを示します。

2. 左のターンシグナルランプ

3. 右のターンシグナルランプ

4. オイルワーニングランプ

■オイルが充分に入っていない場合、オイルワーニングランプが点灯します。その時はオイルを補充して下さい。補充し終わると、ランプは消灯します。

■メインスイッチを『ON』にした時に、数秒間オイルワーニングランプも同時に点灯しますが、数秒後に消灯します。もしランプが点灯しない場合は、バルブがきれている可能性があります。その際は正規販売店に持って行き点検して下さい。必ずオイルが充分に入っている事を確認してから乗車してください。

5. ハイビームランプ

エンジンをスタートした時、このランプが点灯しているとヘッドライトが“HI”になっていることを示しています。

6. 燃料計

タンク内の燃料の量を表示しています。燃料を消費することによって、インジケータは、「F」（満タン）から「E」（空）までを移動します。

メインスイッチがOFFの時、インジケータは「E」の位置を指します。燃料が残り少なくなると、このインジケータが光ります。その時は燃料を補充してください。

7. トリップメーター：最後にリセットしてからの走行距離を表示します。（1=100m）

8. 総走行距離メーター

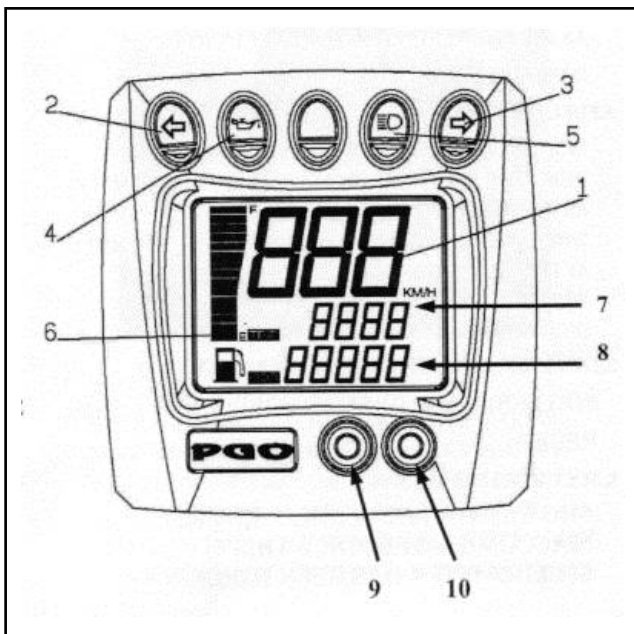
使用開始からの総走行距離を表示します。

9. モードボタン：特に使用しません。

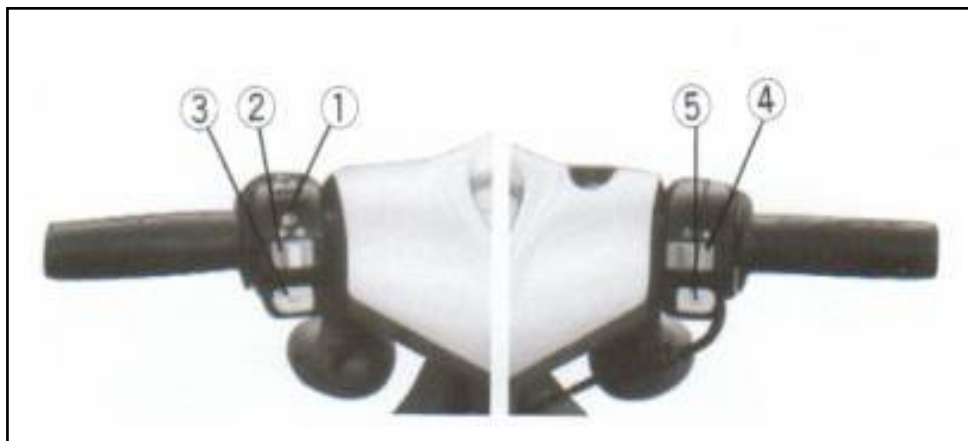
10. セットボタン

■このボタンはトリップメーターのリセットのために使用します。

■メインスイッチをつけて、このボタンを2～3秒押します。その後、トリップメーターが「0」までリセットされます。



ハンドルバーコントロール



1. HI/LO ビームスイッチ

「」はハイビームになります。

「」はロービームになります。

2. ターンシグナルスイッチ（ウインカースイッチ）

左に曲がる時、左に動かします。

右に曲がる時、右に動かします。

オフにする時は、押してください。

3. ホーンボタン

ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

4. ヘッドライトスイッチ

エンジンがかかっている時、スイッチをオンにすると、ヘッドライト、ポジションライト、テールライト、メーターライトが点灯します。

※日本仕様はどの位置に移動してもヘッドライトは点灯します。

5. スターターボタン

スターターボタンはヘッドライトスイッチの下にあります。

ブレーキレバーを握った状態で、スタータースイッチを押すとエンジンがスタートします。

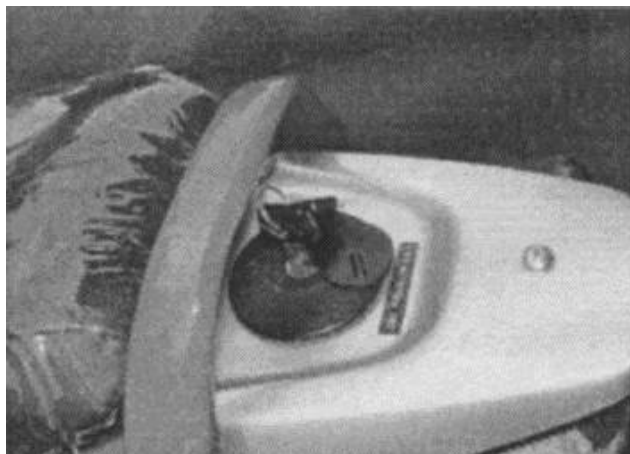
リア/フロントブレーキレバー（ハンドル）

ハンドルを持ち、レバーを握るとブレーキは作動します。

燃料タンク キャップ

開… 鍵を時計まわりに 1/4 回すと、キャップが開きます。

閉… 鍵を戻してキャップを上から押すと鍵がかかります。



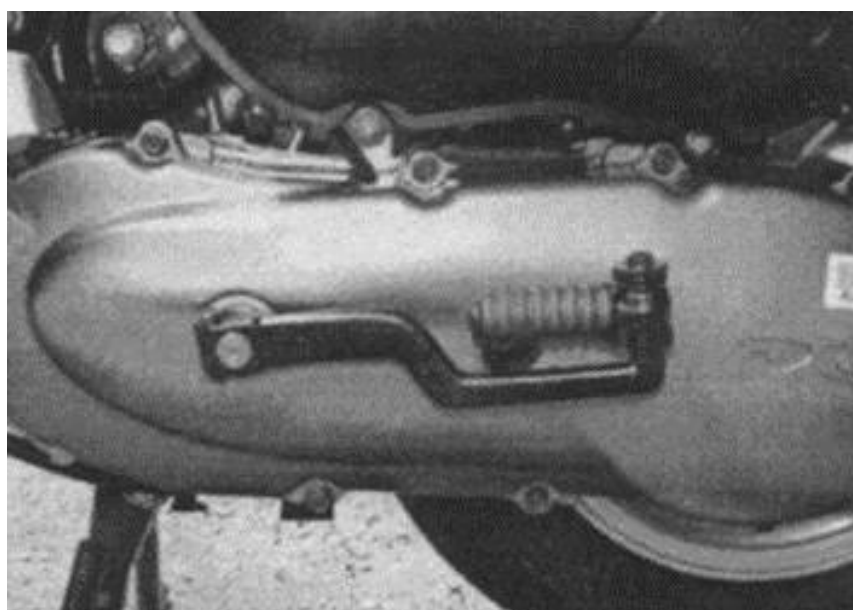
注：

キャップをしっかりと締める為に、写真に示されているように△矢印に合わせてキャップをお締め下さい。

キックスターター

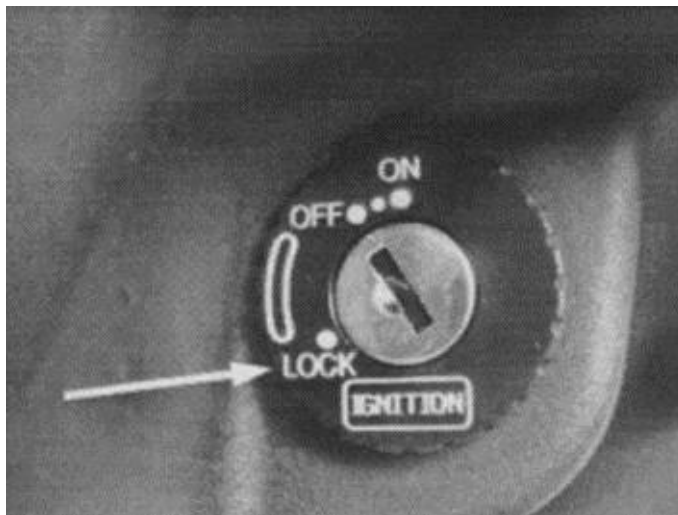
エンジンをスタートさせる為には、キックペダルをエンジンから引いて下に降ろして下さい

(スタートボタンを押してエンジンをスタートさせるかわりに、キックスターターを使用します)。



ハンドル（ステアリング）ロック

メインスイッチに鍵を差し込んで下さい。そしてロックの位置に回し、同時にハンドルバーを左に回転させるとハンドルがロックされて鍵を抜き出せます。



注：

走行中はLOCKの位置にしないで下さい。

シートロック

シートを開ける必要がある場合は、下図のシートロックに鍵を差し込んで右に回して下さい。

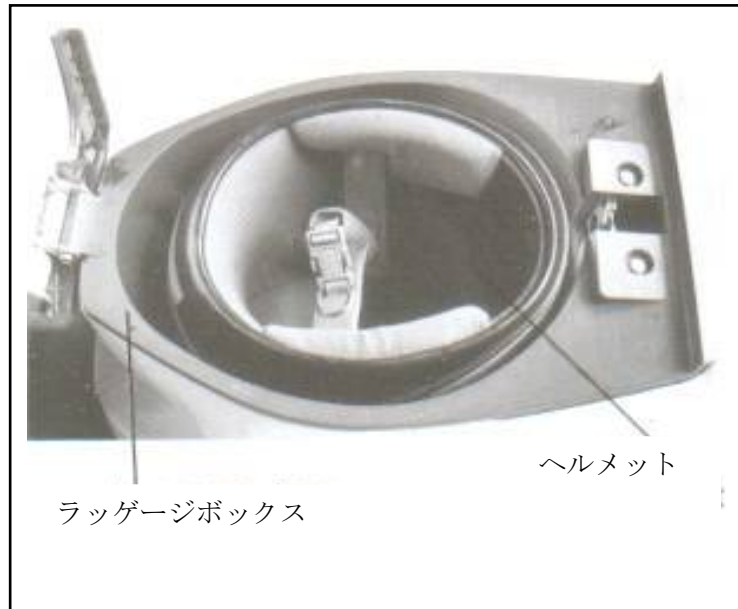
シートを閉める場合はシートを元の位置に戻しシートがロックするのを確認して下さい。

※シートロックがシート後部から 10cm 程前に設置されていますので、その辺りを軽く押していただければ容易に閉まります。



トランク

シートの下部に位置しております。ヘルメットを写真のように逆さにして収納できます。



注：

1. トランク内への荷物の積載は 1Kg までです。
2. トランク内は外気温が高い時やエンジンの熱で温度が高くなります。熱の影響を受け易い用品、食料品、又は可燃性のものは入れないで下さい。
3. 貴重品や壊れ易いものは入れないで下さい。
4. 雨の日や洗車時は、内部が濡れることがありますので、水に濡れて困るものは入れないで下さい。
5. スクーターから離れる時は、シートをロックして下さい。

乗車前の点検

以下の項目を乗車前に必ず点検して下さい。

項 目	行 程	ペ ー ジ
フロントブレーキ	ブレーキの作動状態、クリアランス、ブレーキオイルレベルをチェックし、オイルが漏れていないか確認する。 必要であれば、ブレーキオイルを加える。	1 1
リヤブレーキ	ブレーキの作動状態とクリアランスを点検し、必要であれば適当な調節をする。	1 1
スロットルグリップ	滑らかであるか点検し、潤滑油をスロットルワイヤーに塗布する。	1 1
エンジンオイル	必要であれば、交換する。オイルの補充に従って、オイルレベルを点検する。	1 2
タイヤ	空気圧と摩耗具合、異物の有無を点検する。	1 3
コントローラー／ ゲージケーブル	スムーズに作動しているか点検する。必要であれば、潤滑油を加える。	
センタースタンド	スムーズであるかチェックする。必要であれば、潤滑油を加える。	
アッセンブリー／ ファーステンフィット	全てのアッセンブリーパーツを点検し、必要であれば、修理したり、調節したりする。	
燃料タンク	燃料レベルを点検し、必要であれば、給油する。	7
ライト／シグナルライト	良い状態で作動しているか点検する	1 4

注：

1. 毎回乗車する前に、点検を行って下さい。上記の点検は安全快適にお乗り頂く為に必ず行うようにして下さい。
2. 点検の最中に異常を発見したら、修理するか、正規販売店にお持ち下さい。

ブレーキ

1. フロント・リヤブレーキ…低速で走っている時にブレーキのチェックをして下さい。
クリアランスをチェックし、正しくなければ、調整して下さい。

注： レバーが緩い時は、ブレーキシステムが不調ということなので、調整するまでは乗車しないで下さい。

2. ブレーキオイル…オイルのレベルを点検し、必要であれば、補充して下さい。
(DOT3 又はSAE J1703 レベルのブレーキオイルを使用して下さい)
3. ディスクブレーキのパッド (20ページをご参照下さい)。
ブレーキディスクの交換が必要な場合は、スクーターを正規販売店に持って行って下さい。

ブレーキオイルの漏れチェック

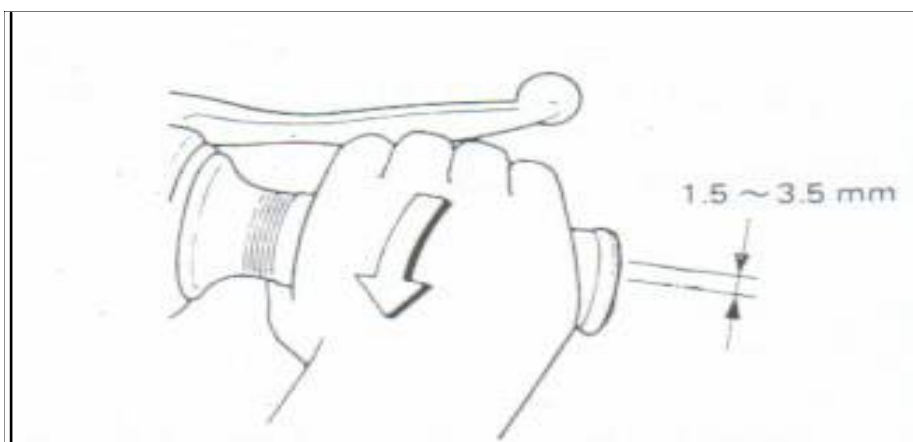
ブレーキレバーを何回か握り、ブレーキチューブのジョイント又はマスターシリンダーからオイルが漏れていないかチェックして下さい。

注：ブレーキオイルが漏れている場合は、ディーラーに知らせ、点検してもらって下さい
(非常に危険な状態です)。

スロットルグリップ

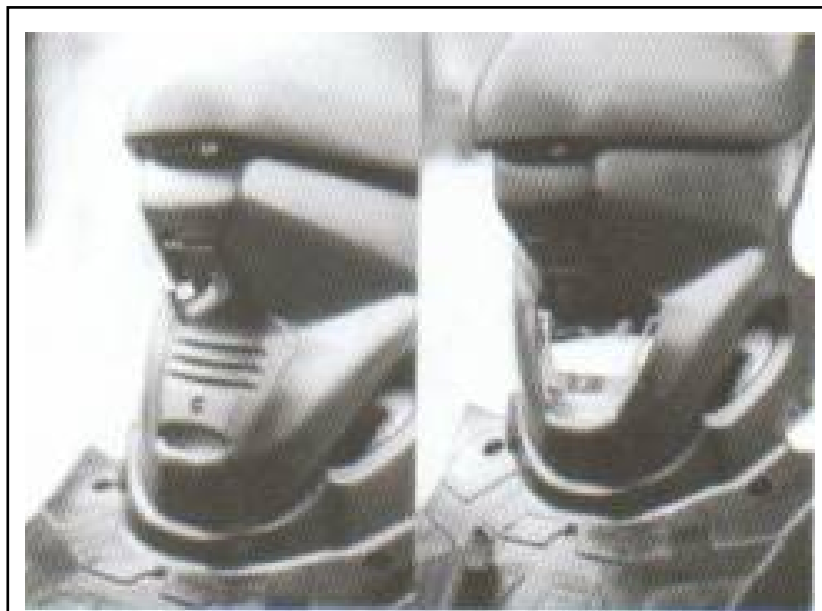
グリップを回してクリアランスと操作状態をチェックして下さい。

グリップが自動的にもとの位置に戻るか確認して下さい。調節が必要な場合は、正規販売店にお持ち下さい。



潤滑油

潤滑油は常に満タンの状態にしておいて下さい。潤滑油の容量は 1.1 リットルです。



1. フロントカバー

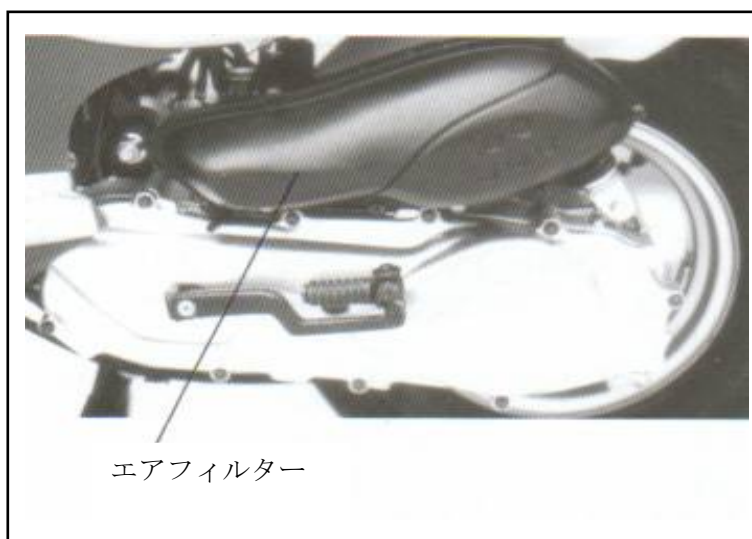
2. 潤滑油ケースカバー

注：推奨されている以外の潤滑油を使った場合、有害な排気ガスが出る恐れがあります。

ヤマハ オートルーフスーパーオイルを使用してください。

エアフィルター

エアフィルターの機能とは水や埃がエンジンに入るのを避けるものです。正規販売店に持って行き、点検してもらい、一定期間で掃除して下さい。



エアフィルター

タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。以下の事項に注意して下さい。

1. タイヤ空気圧……標準値に従って、点検して下さい。

注： タイヤ内と外の温度は基本的には同じですが、荷物の重さ、ライダーの体重、走行スピードによって異なるので、調整して下さい。

タイヤの空気圧：

前輪 2.0KG／CM²

後輪 2.0KG／CM²



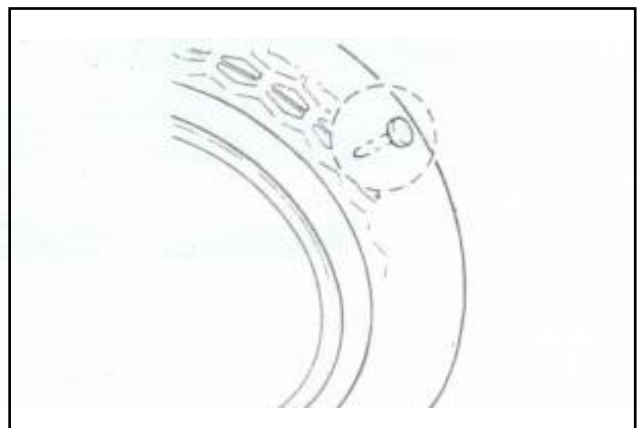
1. 空気圧が高すぎる



2. 空気圧が低すぎる

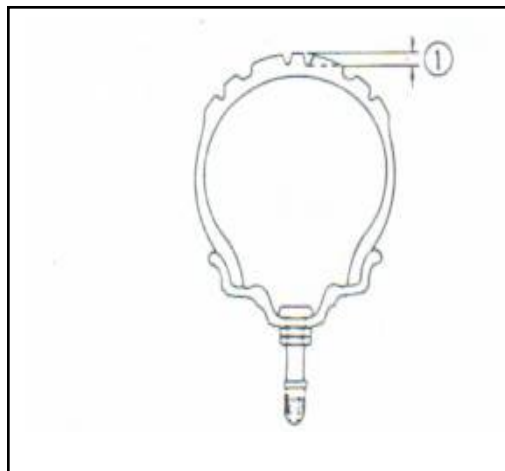
2. チェック

乗車する前には必ずタイヤの状態を点検して下さい。外側が擦り切れていたり、釘、ガラス、ひびなどが入っていたりしていないか確認してみてください。点検についてはディーラーにお尋ね下さい。そして、必要であれば、同じスペックのタイヤと交換して下さい。



3. 溝の深さの点検：タイヤが摩耗していると、砂埃や雨天時の運転ではすべりやすくなったりします。溝が0.8mm以下になったら、タイヤ交換を行ってください。右記の絵を参考にして下さい。

1. 溝の深さ
2. ウェアインジケーター



注：

1. ウェアインジケーターが現れていて、タイヤの溝が減っている時に運転をするのは、非常に危険です。ディーラーに持っていき、タイヤを交換してもらってください。
2. ブレーキ、タイヤ、およびホイールの交換は、正規販売店で行ってください。危険ですので自分自身で行わないで下さい。



ランプ・シグナルライト

前後のシグナル、ブレーキ、ゲージランプ、その他のライト指示類の点検をし、正常に作動しているか確認して下さい。

スイッチ

ヘッドライトのライト、シグナル、ブレーキランプ、ホーン、スタートボタン等のスイッチの点検をして下さい。全てのスイッチやメインスイッチの作動状況がきちんとしているかも点検して下さい。

燃料（ガソリン）

タンクにガソリンが充分に入っているか確認して下さい。

注：

1. タンク容量： 5.1L
2. 溢れるまでガソリンを入れないで下さい。(ネックラインを超えないで下さい) 高温になった時、溢れ出す恐れがあります。
3. マフラーにガソリンを溢さないようにして下さい。

操作・乗車する際の注意事項

1. 乗車する前に全ての操作システム・機能を把握しておいて下さい。
ご質問、ご不満な点等がございましたら、正規販売店までお問い合わせ下さい。
2. 締め切った場所（通風孔のないところ）でエンジンを掛けしないで下さい。

エンジンスタート

1. メインスイッチをONにして下さい。
2. スロットルが完全に閉まっている時に、ブレーキレバーをつかみ、スタートボタンを押して下さい。又はキックスターターを使って、エンジンをスタートさせて下さい。

注：

もしエンジンが掛からない場合は、スタートボタンを押さずにいて下さい。

多大なバッテリーの消費を避けるために、5 秒間以上ボタンを押したままにしないで下さい。

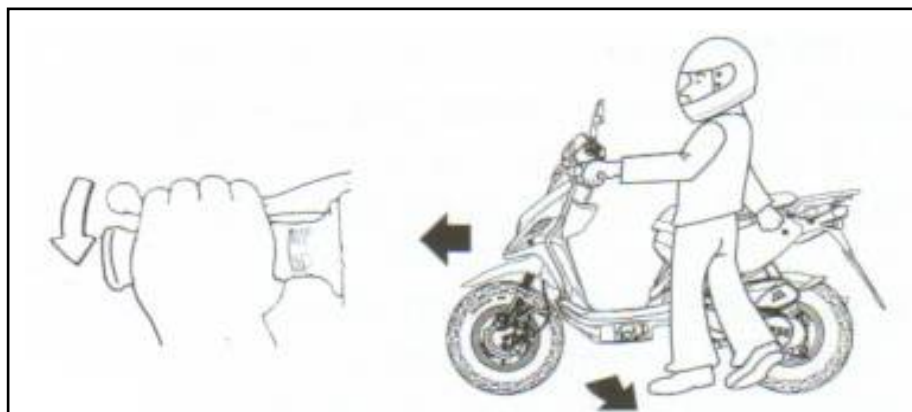
もしスタートボタンでエンジンが掛からない場合は、キックスターターを使って下さい。



エンジン暖機

エンジンを大事に扱う為に、乗車する前に 1-3 分程エンジンを暖めて下さい。エンジンがまだ暖まっていないうちにアクセルをふかすのはやめて下さい。

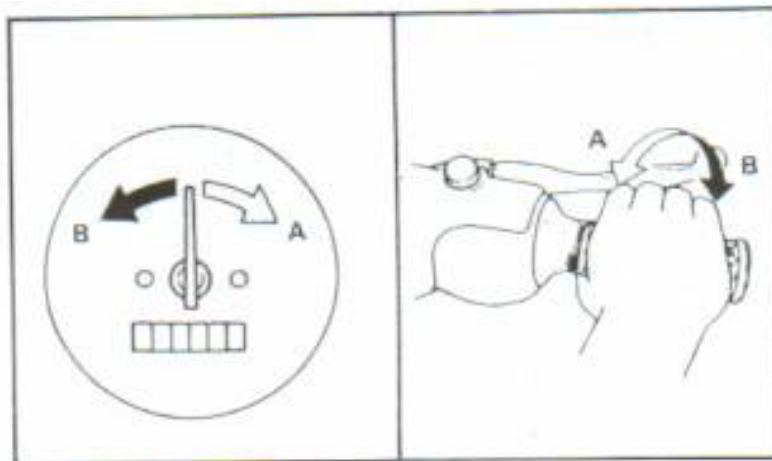
注： スクーターの操作をする前に“エンジン・慣らし運転” 17 ページをお読み下さい
スクーターを乗るにあたって： 2-3 分暖機して下さい。



1. ブレーキレバーをしっかり握って、センタースタンドを下ろして下さい。
2. フロントミラーで、後方がしっかり見えるか確認して下さい。
3. 交通状況を見て、乗車する前にウィンカーライトを確認しましょう。
4. ゆっくりとスロットルグリップを回し、発進後ウィンカーライトを消して下さい。

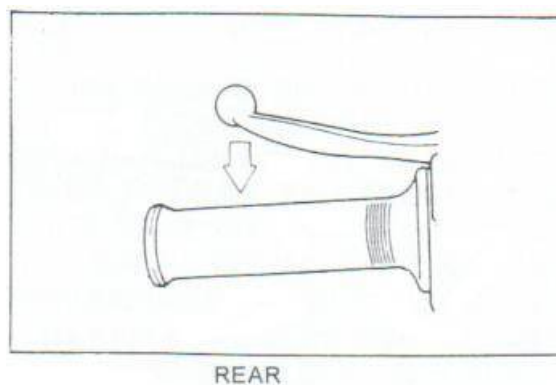
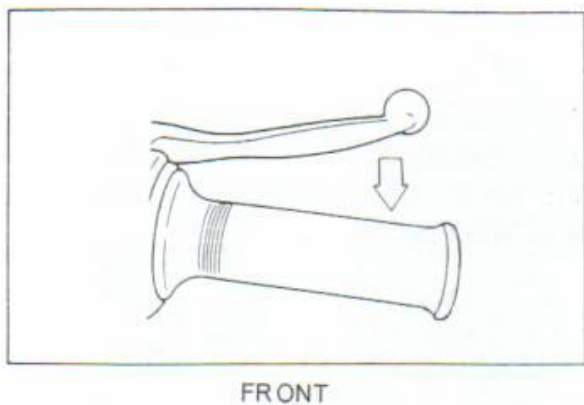
アクセル

スロットルグリップを回転させることによって、スピードを調整できます。
手前に回すとスピードアップし、元に戻すとスピードダウンします。



ブレーキの使い方

1. スロットルグリップから、手を放して下さい。
2. ゆっくりと前後ブレーキのレバーを引いて下さい。



注：

1. 滑ったり、転んだりする恐れがあるので、急ブレーキを掛けしないで下さい。
2. 一方向にスターターが傾いている時は、気を付けてブレーキを掛けて下さい。不適切なブレーキの掛け方は滑ったりする原因となります。
3. 未舗装道路や鉄道路線、雨道ではスピードを落として運転して下さい。
4. 雨道や下り坂ではブレーキが利きづらくなります。下り坂を走る時は減速をして下さい。

エンジン・慣らし運転

走行距離 1 k mから 1000 k mはスターターの寿命に一番影響する時です。新しいエンジンは始めの 1000 k mはあまり負担をかけないように機関出力の半分位で運転して下さい。

エンジンのどの部分も正常なクリアランスを得るような運転を心掛けて下さい。エンジンに過大なストレスを与える運転は慎んで下さい。

1. 0～150 k m

1/2 以上のアクセル開度は避けて下さい。

1 時間に 5～10 分間程の割合で、エンジンを冷やして下さい。スピードを変えて走って下さい（長時間で同じスピードでは走らないで下さい）。

2. 150～500 k m

長時間の 1/2 以上のアクセル開度のスロットル操作は避けて下さい。

3. 500～1, 000 k m

3/4 以上のスロットル操作は避けて下さい。

注：

400 k mを超えたら、ギヤーオイルを交換して下さい。

4. 1000 k m以上

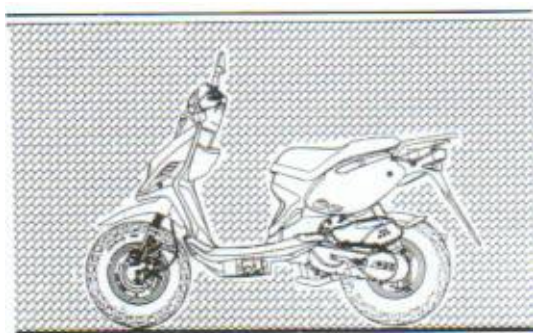
長時間の全開走行は避けて下さい。

注：慣らし運転期間に、なにか問題があれば、正規販売店に問い合わせして下さい

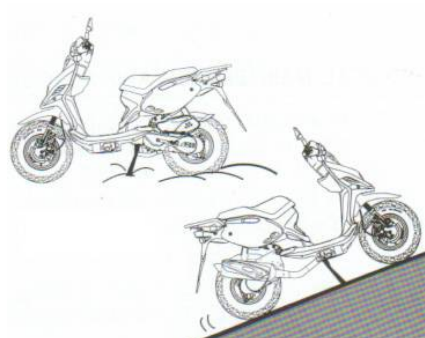
駐車

駐車する際はエンジンを止めて、鍵を取外して下さい。

正しい止め方



誤った止め方



注：

乗車後はマフラーが非常に熱くなっているので、子供や歩行者からできるだけ離れて駐車して下さい。スクーターを坂道や地盤が不安定なところには倒れる可能性がありますので駐車しないで下さい。

予防措置（プレコーション）と清潔なメンテナンス

本製品をよりよく安全に運転していただく為に、一定の期間に点検、調節、潤滑油の補充等を行って下さい。安全運転はライダーの義務です。メンテナンスと潤滑油の補充は常に認識し、環境、天候、地形の影響による事故や乗車中の偶発的な事故以外に、危険を回避する重要な要因とご理解下さい。

注：

このスクーターは正常な舗装道路用にデザインされております。泥道や濡れている道を走る時は、エンジンの消耗が早まるので、エアークリーナーを頻繁に掃除して下さい。

点検や予防措置についてご不明な点がある時は、正規販売店にお尋ね下さい。

メンテナンス表（A：点検&調整 C：クリーニング R：交換 T：締付け）

安全、機能的かつ環境のために、一定の期間でメンテナンスを行って下さい。

メンテナンス表（A：点検&調整 C：クリーニング R：交換 T：締付け）：

安全、機能的かつ環境のために、一定の期間でメンテナンスを行って下さい。

項 目	走 行 距 離										走行前に点検
	300	3000	6000	9000	12000	15000	18000	21000			
スパークプラグ	3, 000 k m ごとに清掃するか、新品に交換下さい。										
デカーボナイズング			C		C		C				
トランスミッションベルト			A		A		A				
イグニッションタイミング			A		A		A				
エアークリーナー		C	C	C	C	C	C	C			
キャブレター	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
アイドリング (rpm)	1, 900 の±100rpm でチューニングして下さい。										
エミッション	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
燃料フィルター			C		C		C				
オイルフィルター			C		C		C				
オイルボリューム	一度ワーニングランプが点滅したら、推奨されているオイルを補充して下さい。										
ギヤーオイル	R		R		R		R				
タイヤの空気圧	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
タイヤの外側											A
ブレーキレバー	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
ディスクブレーキオイル	液面の水面は常に High と Low の間にして下さい。										A
ブレーキライニング	6, 000 k m ごとにチェックをし、必要であれば、新しいものに交換して下さい。										
ねじとナット	T	T	T	T	T	T	T	T	T		
パイプ	A	C	C	C	C	C	C	C	C		
ライトとホーン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	

エアーフィルターの清掃

1. ラゲッジタンクを開けて下さい。
2. (a) タンクを取外して下さい (シートも含めて)、(b) ラゲッジケースを取外して下さい。
(c) 燃料タンクのカバーを取って下さい。(d) フロントカバーを取外して下さい。
(e) ボディーカバーも取外して下さい。
3. 4本のねじを取外して、エアークリーナーカバーを取外して下さい。



エアークリーナー

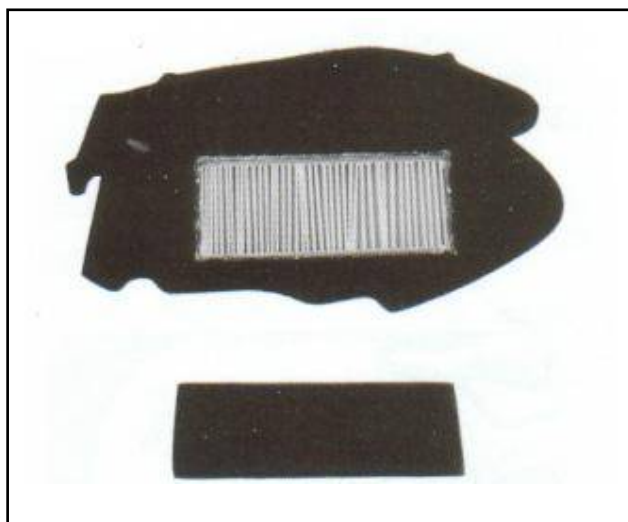
- a. エアークリーナーカバーのねじ b. 4 を外し出す

4. スポンジを取出して、清掃して下さい。

注：スポンジを清掃する時は溶剤のみを使用して下さい。可燃性又は爆発性のある溶剤は絶対に使用しないで下さい。

5. 破損しないようにしながら、スポンジの溶剤を乾かして下さい。
6. スポンジの表面に2ストロークオイルを数滴たらして下さい。(濡らす程度でよいので、オイルに付けるまではしないで下さい。)
7. スポンジをエアークリーナーに戻し、液体が濡れないようにしながら、しっかりとカバーをして下さい。
8. エアークリーナーを組立てて、所定の位置に戻して下さい。ねじがしっかり締まっているか確かめて、空気(エアークリーナー以外から入ってくる)がエンジンに入るのを避けて下さい。

注：エアークリーナーを組立てる前にエンジンを掛けると、ピストン・メインケースが焼き付いてしまうので、絶対に掛けないで下さい。



スパークプラグの点検

スパークプラグはエンジンにとって最も重要な部品であり、また簡単に点検の出来るところでもあります。スパークプラグの状態によって、エンジンの調子がうかがえます。理想的な電極の色は薄茶色です。もし問題があれば、正規販売店に点検に出して下さい。時間がたつにつれて熱や埃の影響で腐食したり、焼き焦げたりするので、ある一定の期間で交換して下さい。腐食したり、焼き焦げたりした場合は、新しいスパークプラグに交換して下さい。

標準スパークプラグ

BP7HS (NGK) L82YC (CHAMPION)

スパークプラグキャップ： 0.6-0.7mm

スパークプラグを点検する際、ワッシャーとねじの表面をきれいにしてから、締付けして下さい。

トルク：2.0KGF-M

注：もしトルクレンチを持っていない場合は、指で回して、1/4 と 1/2 に合わせて下さい。そして後程普通のレンチを使って標準トルクをつけて下さい。

ブレーキの調整

レバーのクリアランス：

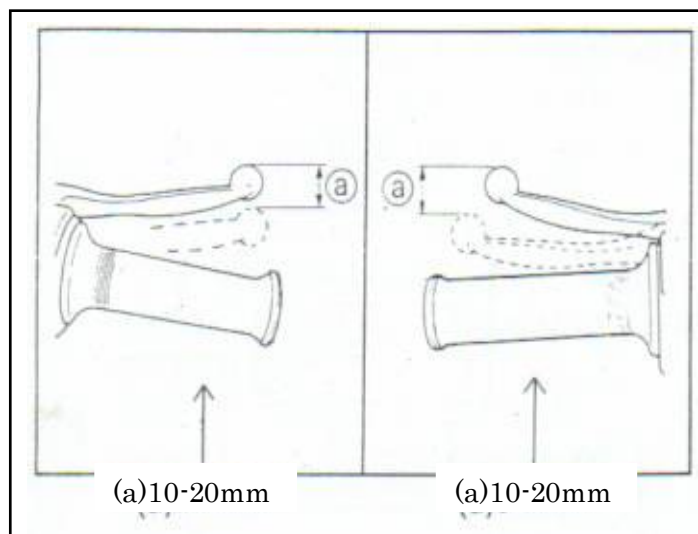
(a) フロントブレーキ：10-20mm

(b) リヤブレーキ： 10-20mm

クリアランスがあっていない場合は、調整して下さい。

注：

ブレーキクリアランスがあっていない場合、ブレーキシステムが危険だということなので、乗車しないで、ディーラーに持っていき点検と調節をしてもらって下さい。

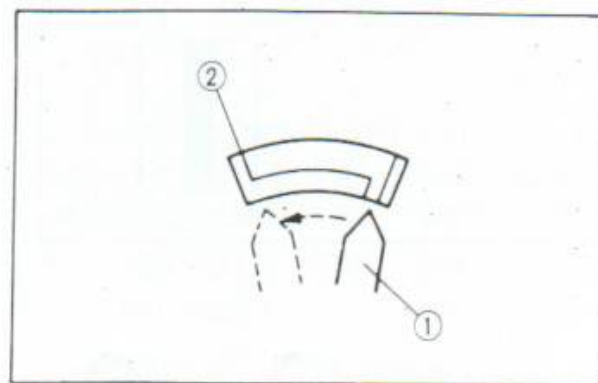


ライニングチェック

ライニングの点検にはインジケーターがあります。ライニングが擦り減っていないかどうかのチェックができます。(ブレーキをオフにする必要はありません)

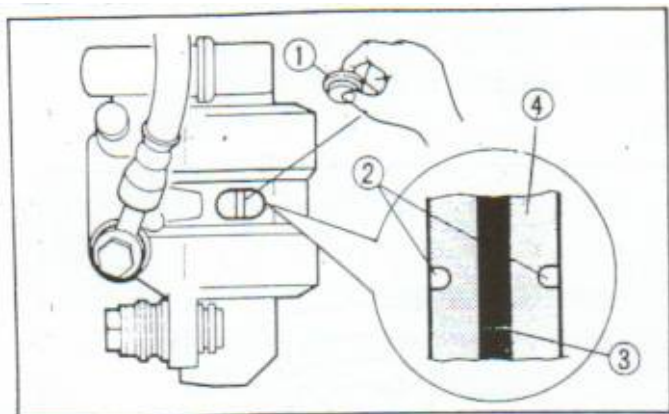
もし、インジケーターがボトムラインを指していたら、正規販売店に点検に行き交換して下さい。

1. インジケーター
2. ボトムライン



フロントブレーキ

ビューイングホールのカバーを開けて、点検の為にブレーキを作動させて下さい。もし、インジケーターがディスクに届きそうであれば、ディーラーで交換して下さい。



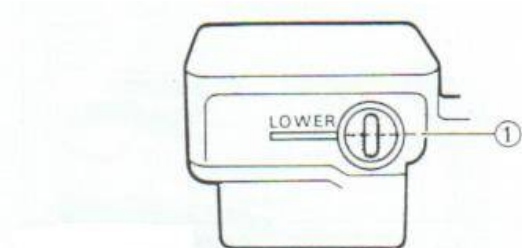
- | | |
|------------------|------------|
| 1. ビューイングホールのカバー | 2. インジケーター |
| 3. ブレーキディスク | 4. ブレーキパッド |

注：

カバーは必ず戻し、締めたのを確認して下さい。もし、ブレーキエリアが濡れていたら（水分で）、ブレーキが作動しなくなり大変危険です。

ブレーキオイル

ブレーキオイル不足はブレーキシステムの中に空気を浸入させ、ブレーキが利かなくなる可能性があります。ブレーキオイルの量をチェックして、必要であれば足して下さい。その際、以下の手順に従って下さい。



1. LOWER LEVEL

1. オイルレベルを点検する時、ブレーキオイルが水平になるようにハンドルバーを安定させて下さい。
2. 正しいブレーキオイルを使用して下さい。正しいブレーキオイルを使用しない場合、オイルシールが欠損してしまいオイル漏れやブレーキ機能喪失の原因となる可能性があります。

推奨のブレーキオイル

DOT3 又は SAE J1703 ブレーキオイル

3. 同種類のブレーキオイルを足して下さい。他種類を使用したり混ぜたりしますと化学反応を起こし、ブレーキが壊れる原因となります。
4. メインシリンダーに水が入るのを避けて下さい。水分を含むとブレーキオイルの沸点が下がって気泡が発生し、ブレーキが利かなくなります。
5. ブレーキオイルによって、ペイントの表面やプラスチックパーツが腐食してしまうことがあります。もし、オイルを溢れさせてしまったら早急に拭き取って下さい。
6. もし、ブレーキオイルが標準のレベルまで補充されない場合、ディーラーにて点検してもらって下さい。

フロントフォークの点検

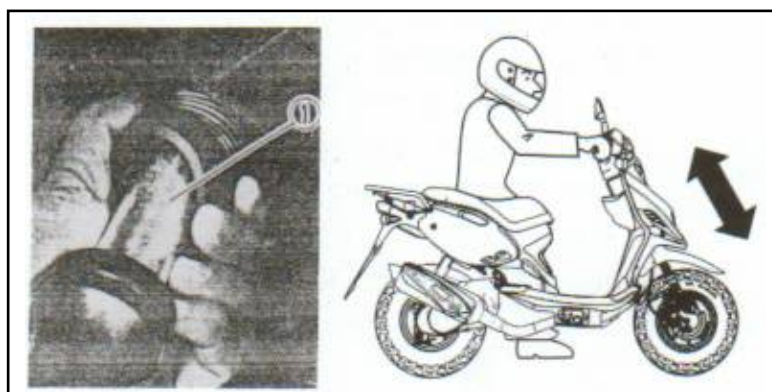
注：

転倒などの危険を避ける為にもスクーターは安全な状態を維持しましょう。

1. 目で点検する……インナーパイプが傷ついていたたり、壊れていたたり、又はオイルが漏れていたたりしていないか点検して下さい。
2. オペレーティングチェック……スターターを平坦なところへ置いて下さい。
 - a) ハンドルを持ってスクーターを水平な位置にして下さい。そして、フロントブレーキレバーを握って下さい。
 - b) 2-3回フロントフォークを上下に作動させて下さい。

注：

フロントフォークがスムーズな作動をしない場合もしくは損傷していた場合には正規販売店にお持ち下さい。



1. 目で点検する

2. オペレーティングチェック

バッテリー

バッテリーは開封できないようになっており、液体の状態や量を点検する必要はありません。もし、液体が漏れていたら正規販売店に持っていき点検してもらってください。

注：

バッテリーシステムが壊れてしまう可能性があるため、シールボルトは剥さないでください。

ヒューズの交換

1. ヒューズはバッテリーの横に位置しています（ステップボードの下）。
2. A) カバー上のネジ3本 B) カバーを外してください。
3. ヒューズが焼焦げていたら、メインスイッチと問題のパーツのスイッチを切ってください。そして新しいヒューズと交換してください。再びスイッチをつけて作動状況を確認してください。またすぐに新しいヒューズが焼焦げてしまったら、正規販売店で点検してもらってください。

注：

オリジナルのスペックよりも高いアンペアのヒューズは使わないでください。

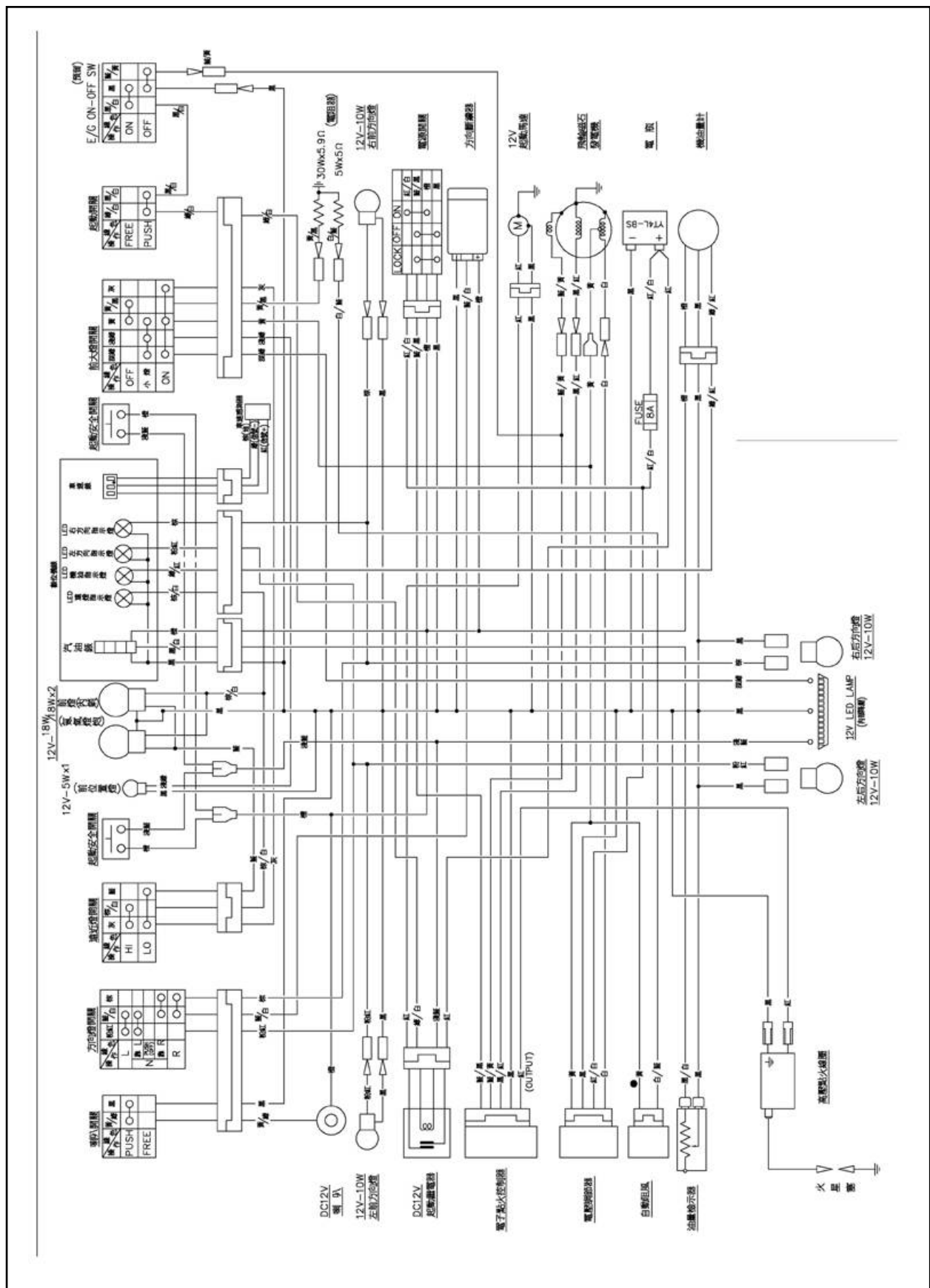
異なるアンペアの（異常な）ヒューズの使用によって、バッテリーシステムが強いダメージを受けたり、発火の原因となりますので十分に気を付けてください。

1. バッテリー

2. ヒューズ



スペックリスト	
タイプ	PMS110DN
ディメンション：	
全長	1667mm
全幅	780mm
全高	1125mm
軸間距離	1173mm
乾燥重量	92 k g
エンジン：	
タイプ	2ストローク 空冷
モデルナンバー	P 2
シリンダー排列	シングル
ピストン移動	106.2 c m ³
始動方式	セル／キック
ルブリケーションシステム	分離給油システム
潤滑油	2ストロークオイル (ヤマハ オートルーフ スーパーオイル)
容量	1.1 L
ギヤーオイル：	
形式	API SAE 10 W30
容量	
一定の期間で交換する	110 c c
総容量	130 c c
エアークリーナー	ドライフィルター
燃料：	ガソリン
ガソリン	レギュラーガソリン
燃料タンク量	5.1 L
スパークプラグ	BP7HS (NGK) 又は L82YC
クラッチタイプ	ドライタイプ
ギヤーシフトタイプ	オートマティック (Vベルト)
タイヤサイズ：	
前輪	120／70－12
後輪	130／90－10
電気系統：	
イグニション	C. D. I
ジェネレーター	フライホイール マグネット エレクトリック
バッテリータイプ	YTX5L-BS
バッテリー容量	12V 5Ah
バルブボルト／量	ランプタイプ
ヘッドランプ・ランプタイプ	12V-18W/18W×2
リアランプ／ストップランプ	12V-0.7/2.7W
シグナルライト	12V-10W×4



保 証 書

お買い上げいただきました PGO ブランドスクーターは MOTIVE POWER INDUSTRY CO.,LTD の厳しい品質管理のもとで製造されたものです。万一、材料上あるいは製造上の不具合がありました場合には、保証書に示す条件にしたがって無料で修理させていただきます。

1) 保証期間

ご納車日より 1 年もしくは 15,000 k m 走行時点のいずれかの期間を満たすまで。

2) 保証の対象範囲

消耗部品および油脂類を除く全部

3) 保証しない事項

① 通常の使用損耗あるいは経年変化により発生する現象。

(消耗部品・油脂類の消耗・劣化等。内装部品、樹脂部品、塗装面、メッキ面
などの自然退色・劣化等)

② バイクの機能に影響がないことが一般に認められている現象等。

(音、振動、オイルのにじみ、操作フィーリングなど)

③ 外的要因によるものであり、材料上または製造上の原因ではない不具合など飛石、酸性雨、塩害、鳥糞、薬品、鉄粉、煤煙、降灰等の外部要因に起因する不具合や地震、台風、水害等の天災ならびに火災、事故に起因する不具合。

④ お車を使用できなかった事による不憫さ及び損失など

(電話代、レンタカー代、休業補償、商業損失など)

⑤ 車両修理に伴うレッカー代

⑥ 適切な点検・整備、正しい使用・管理等がなされていないことに起因するもの及び PGO 純正部品以外の装着・改造等に起因する不具合は保証修理いたしません。

(1) 取扱説明書に示す取扱方法に従って使用していない場合

(2) 日常点検を実施していなかった場合

(3) 法令・および弊社の指定する点検整備を実施していない場合

(4) 定期交換部品、および油脂類を指定どおり交換しなかった場合

(5) 指定外の油脂類を使用した場合

(6) 本保証書を保持していなかった場合

※ ミッションオイルの交換は初回 1,000 k m 以後 6,000 k m 毎に必ずおこなってください

⑥ 保証の発行

この保証書は、お買い上げいただいた PGO 取扱代理店が保証登録書に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

⑦ 保証の継承

保証期間が残っているお車をお買い上げの際は、ご購入後ただちに最寄の PGO 取扱代理店へお車とこの保証書をお持ちになり、必要な点検（有料）と必要事項の記入捺印をお受けください。これにより残り期間を保証いたします。

⑧ 保証修理の受け方

保証修理をお受けになる場合は、お車とこの保証書をお買い上げの PGO 取扱代理店へお持ちください。保証書を提示されない場合は保証修理を致しかねます。

⑨ この保証書は日本国内で販売し使用されるお車にのみ適用いたします。

従って海外へ持出す場合は、その時点で保証が打切りとなります。